

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
浜松未来総合専門学校		昭和59年12月24日		佐藤 雅一		〒 430-0929 (住所) 静岡県浜松市中央区中央3丁目10-31 (電話) 053-450-6550				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		杉浦 哲		〒 420-8537 (住所) 静岡県静岡市葵区御幸町20番地 (電話) 054-204-2490				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	専門課程(工業)		デジタルコンテンツ科		令和 3(2021)年度		-		令和 6(2024)年度	
学科の目的	本学科は、今後ますます加速度的に変化するトレンドに対応可能な知識と柔軟な感覚、表現力を兼ね備えた次世代のコミュニケーション担い手を、3年間の課程で育成する。ビジネスを深く理解し、クライアントの要望に最大限応えうる技術力およびデザイン力を有し、目的に応じて基本的表現から先進的表現まで自在に駆使しうる能力を養う。また、業界標準の各種ツール(ソフトウェア)を的確に使いこなし、チーム制作に前向きに取り組むクリエイターを輩出する。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【教育内容】デジタルコンテンツ制作を通じ、WEBデザイン、動画撮影・編集、WEBプログラミング等の幅広い制作スキルを習得する。また、産学連携授業によりビジネスを理解し、クライアントの要望に最大限応えることで実践的な技術を修得する。 【取得可能資格】・Illustratorクリエイター能力認定試験(スタンダード)・Photoshopクリエイター能力認定試験(スタンダード)・WEBクリエイター能力認定試験(スタンダード)									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,860 単位時間	300 単位時間	2,560 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率			
60 人	52 人		0 人		0 %		10 %			
就職等の状況	■卒業者数(C) : 20 人									
	■就職希望者数(D) : 19 人									
	■就職者数(E) : 19 人									
	■地元就職者数(F) : 16 人									
	■就職率(E/D) : 100 %									
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 84 %									
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 95 %									
	■進学者数 : 0 人									
	■その他									
	1名(自己就職) (令和 6 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) WEB制作会社、動画制作会社、広告業界 等									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価 : 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体 : 受審年月 : 評価結果を掲載したホームページURL									
当該学科のホームページURL	https://hamasen.ac.jp/department/digital/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A : 単位時間による算定)									
	総授業時数					2,860 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					180 単位時間				
	うち必修授業時数					2,860 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					180 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間				
	(B : 単位数による算定)									
	総単位数					単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数					単位				
うち必修単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位					

教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2 人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人
	計	2 人
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	2 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
デジタルコンテンツ科の教育の質及び成果向上を目的とし、企業・業界団体等と連携のうえ、必要とされる最新の知識・技術・技能をカリキュラムに反映・改善するための情報交換を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業等の意見を教育に反映させるため、学校組織内に教育課程編成委員会として位置付ける「教育課程編成委員会」を「浜松未来総合専門学校 教育課程編成委員会規程」に則り設置しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制としている。教育課程編成委員会は、校長の下に設置され、教育課程編成委員会の意見は新年度運営計画作成の際に審査されたのち、校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
阿部 真也	静岡県広告業協会 理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	①
中根 尊之	株式会社ビクセル・アンド・ペーパー 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	③
小澤 稔	浜松未来総合専門学校 教務課長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	—
小久保 亮	浜松未来総合専門学校 デジタルコンテンツ科教諭	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	—
山田 さやか	浜松未来総合専門学校 デジタルコンテンツ科教諭	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (7～9月、2～3月)
(開催日時(実績))
第1回 令和6年7月29日(月) 16:00～17:30
第2回 令和7年3月19日(水) 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
「ChatGPT等はあくまでアイデア出しの叩き台に留め、コンセプトの流用を禁止すべきだ」というご意見をいただきました。生成系AIの情緒的・社会的ルールが未確立な現状では、安易な利用を推奨できないのは確かです。しかし、企画・コンセプト段階での活用は慎重に行い、一部授業で試験的に導入したうえで、AI出力結果に対する批判的評価と編集能力の育成を学習の一環として実施しています。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

WEBデザイン及び動画業界への就職を目指す学生に対し、業界内で求められる基本的行動や発想力を演習・実習を通じて体得させるため、運営協力企業を選定している。また、業界で活動中の関係者や造詣の深い者を講師として招へいし、現場の声を教育現場に反映させることで、教育内容及び指導体制の改善を図る。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

デジタルコンテンツ科が掲げる進路の一つである動画業界向けの重要科目について、業界経験豊富な講師による評価を受ける。実施にあたり、事前に打ち合わせを行い、全授業終了後の到達目標設定、講義および演習の振り返り、成績評価方法を決定し、それらに則って授業を実施する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
動画制作実習Ⅱ	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	動画撮影・制作を通して、動画で伝えるための技術を身につける。	株式会社THE BLUE OCEAN

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「浜松未来総合専門学校 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るための「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	ちゃんと学ぶ、TypeScript	連携企業等: 株式会社ユーデミー
期間:	令和7年3月18日	対象: デジタルコンテンツ科教員
内容	TypeScriptについて、概要から型の宣言、実践的な使用法まで、網羅的に学習する。	
研修名:	JAGDAデザイン会議2025	連携企業等: JAGDA
期間:	令和7年4月14日	対象: グラフィックデザイン科教員
内容	これからのグラフィックデザインが社会とどう向き合い、存在感を示していくべきかについて検討する試み。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	「ちょっと深いファシリテーション」	連携企業等: (株)Career Foundation
期間:	令和7年1月6日	対象: 全教職員
内容	論理には「経済の論理」「政治の論理」「法技術の論理」「社会の論理」があり、それぞれの性質を理解し、対峙する議論に対してどのようなズレに着目し収束に向けていくかを実践的に学ぶ。	
研修名:	「多様な学生が共に学ぶ環境整備について」	連携企業等: (株)リソースフル
期間:	令和7年3月14日	対象: 全教職員
内容	学生の可能性を引き出す「勇気づけコミュニケーション」の考え方を知り、コミュニケーションスキルの重要性を理解する。また、アンコンシャス・バイアスのチェックテストを通して、自分自身の思い込みの傾向を把握する。	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	モダンJavaScriptの基礎から始める挫折しないためのReact入門	連携企業等: 株式会社ユーデミー
期間:	令和7年夏季または冬季	対象: デジタルコンテンツ科教員
内容	モダンJavaScriptの基礎からReactの使用法まで、段階を追って学ぶ。	
研修名:	PHP基礎の学習後に見てほしいLaravel入門	連携企業等: 株式会社ユーデミー
期間:	令和7年夏季または冬季	対象: デジタルコンテンツ科教員
内容	最新のLaravelを用いて、実務で役立つウェブサイト開発スキルを習得する。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	指導力向上研修会	連携企業等: 未定
期間:	令和7年夏季または冬季	対象: 全教職員
内容	AI・ChatGPTを用いた教員の教育力・指導力向上に必要な研修を実施	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを基本方針に定め、2つの目的を掲げ実施している。

①本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表する。また、このことにより、本校の組織的・継続的な改善を図ること。

②自己評価に結果に基づいて行う学校関係者評価により、適切な説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと本校との連携協力による特色ある学校づくりを進めること。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準(1) 教育理念、目標
(2)学校運営	基準(7) 学校運営
(3)教育活動	基準(2) 教育活動
(4)学修成果	基準(3) 教育成果
(5)学生支援	基準(4) 学生支援
(6)教育環境	基準(5) 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準(6) 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準(7) 財務
(9)法令等の遵守	基準(7) 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準(8) 社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

授業アンケート実施後の集計について、フィードバックまでに時間を要している指摘に関して、1人の講師が複数科目担当されていた場合、アンケート結果を1人分にまとめてフィードバックしていた。このとりまとめ作業時間を要しており、現在はシンプルに科目単位でアンケート結果をフィードバックする運用に切り替えた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
山崎 正太郎	たんぽぽ保育園 園長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
小野 哲	小野経営科学研究所 代表	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
田中 宏和	システムコラボ・マネジメント 理事長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
内田 まどか	静岡県予防医学協会 健康増進課	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
土田 昌宏	株式会社アイデア 代表取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
杉本 恵美	株式会社スティルアン 管理部	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
水野 拓宏	株式会社アルファコード 取締役ファウンダー 兼 CTO	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
関 正宏	株式会社アルファコード 企画開発部	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
中野 雅晴	館山寺温泉観光協会 専務理事	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
増田 公基	七恵会 理事長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
鯨 佑輔	浜松未来総合専門学校 同窓会 会長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	卒業生
松島 あずさ	浜松未来総合専門学校 後援会 会長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	保護者
西村 智子	静岡県立磐田西高等学校 校長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	高校等
星野 仁	浜松市 企画調整部 情報システム課	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	専門家等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/#school-information>

公表時期: 令和7年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

産業構造や労働環境、さらには職業としての役割が大きく変化し続ける中において、本校がその教育理念、目的・目標、および教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対して正確かつ積極的に伝えることが必要であり、そのために広く学校の情報を公開することを基本的な方針とする。

情報公開することによって、学校の教育活動・運営の改善に資するだけでなく、産業界と密接に連携した職業教育の充実により、社会の求める人材養成にかかるニーズを満たすことの評価と持続的な課題解決と教育の充実にも繋げる。

また、学生の確保、学生の進学ミスマッチによる中退・不登校などの問題、今後さらに見込まれる外国人留学生の増加などに対応するためにも、入学希望者などに幅広く、かつ、正確な学校情報を伝える必要がある。さらに、企業などからの専門的・実践的な能力などを有する人材に対する需要は年々増加しており、今後さらに企業などとの連携を深め、産官学協同で人材育成をすることが必要と考える。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	設置コース、専門課程、修業年数、募集定員、学習時間数、入学者数、卒業者数、取得可能資格、主な就職先
(3) 教職員	教職員数、組織図、研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備、学校行事、各種コンテスト、大学との連携プロジェクト、選択授業
(6) 学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
(8) 学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ(受入学科、入学選考方法、出願資格)
(11) その他	その他の教育活動(附帯事業等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://hamasen.ac.jp/about/disclosure/#school-information>

公表時期: 令和7年6月30日

授業科目等の概要

(専門課程 (工業) デジタルコンテンツ科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			みらい考房	自分の「みらい(働く姿)」をイメージし、実現に向け、今何をすべきか、何を準備すべきかを修学基礎、職業人講話、プロジェクトデザイン等の授業を通して考える全校統一・学科横断プログラム。	1	150	5		○		○		○	○	
2	○			み ら い バ リュウアップ プログラムⅠ	学科を越えて、必要なスキルを求めて学び合う仕組みを実現。学生自身の職業人としての付加価値を積み上げるために、自発的PG、提供型PGを自由に選択できるプログラム。	1	30	1		○		○		○	○	
3	○			み ら い バ リュウアップ プログラムⅡ	学生自身の職業人としての付加価値を積み上げるために、学生が自らPGを企画・計画・活動し、その実績を評価し単位として認める自発的PGを中心にするプログラム。	2	60	2		○		○		○	○	
4	○			基礎造形	「デザイン」全般に対する理解を深め、社会におけるデザインの役割について説明をすることで、興味を醸成する。 媒体を問わず幅広く「表現」について経験し、今後の制作にかかわる感覚を養う授業とする。	1	40	2	○			○			○	
5	○			WEB制作Ⅰ	WEBデザイン制作ソフトの操作技術を習得することで、テンプレートやオーサリングツールを使用してWEBページを視覚的にデザインし、制作・編集することができる。WEBデザイン制作ソフトのFigmaを、現役のWEBデザイナーが担当する。	1	180	6		○		○			○	
6	○			WEB制作Ⅱ	WEBデザイン・制作に必要な基礎知識の習得を確認するための検定試験の対策を行い、検定資格の合格を目指す。	2	30	1		○		○			○	
7	○			デザイン編集 ツール	ドローツールや画像編集ツールの操作技術を習得することで、制作における素材作成の基礎を身につける。オブジェクトの作図、画像のレタッチ、画像補正、解像度の理解、レイアウト基本から応用まで、ステップバイステップで複数の技能を身につける。	2	180	6		○		○			○	

8	○			動画制作ツール	動画制作ソフトの操作技術を習得し、素材を的確に編集して1本の動画として構成できるようにする。また、デジタル合成やモーショングラフィックス等の効果を加えることで、要望に応じた動画を制作できるようにする。	2	180	6		○		○			○	
9	○			撮影・動画編集基礎	撮影機材の取り扱いやライティングを含む、クライアントの要求に対応した演出・撮影技術を習得する。静止画・動画など、制作に必要な素材を的確に撮影し、簡易編集ソフトを用いて編集・加工する技術を身につける。	1	140	5	○			○			○	
10	○			動画制作実習Ⅰ	様々な媒体を想定した実践的な動画制作を行い、用途や場面に応じた表現を経験することで、動画制作に関する技術を向上させる。	2	180	6		○		○			○	
11	○			動画制作実習Ⅱ	実践を想定したクライアントワークを通じて、より確実な動画制作の技術を習得する。また、映像配信に関する知識と技術を学ぶ。	3	180	6		○		○			○	○
12	○			WEBデザイン基礎	目的に沿ったコンテンツを制作するために、既存のWEBサイト等のサンプルを的確に収集・評価し、柔軟に応用する発想力を養う。また、クライアントや制作チームとのコミュニケーションに必要な、デザインの機能や印象を客観的に説明する思考力の基礎を養う。	1	40	2	○			○			○	
13	○			WEB言語・知識	WEBページを記述するためのマークアップ言語と、視覚的な装飾を行うスタイルシート言語を学習し、WEB制作に必要なコーディング技術を習得する。HTMLとCSSの関係性を理解し、具体的な記述ができる力を身につける。	1	100	3		○		○		○		
14	○			WEBデザインⅠ	目的に応じたWEBページを企画し、適切な素材を制作した上で、WEB全体の構成を考慮したデザインを行う。カンパ制作からコーディングまでの実習を通じて、制作フローを学ぶ。	1	60	2		○		○	○	○		
15	○			WEBデザインⅡ	具体的な販売促進を想定し、顧客ニーズを的確に把握した上で、導線が明確で成果につながるWEBページの構築方法を体系的に学ぶ。マーケティングの基礎を理解し、ユーザーの反応を得られるWEBページを制作できる力を身につける。	2	90	3		○		○			○	
16	○			WEB構造	サーバーサイドで動的なWEBページを作成するためのプログラミング言語を学び、業務に対応できるWEB制作の幅を広げる。	2	120	4		○		○			○	

17	○			WEB分析・解析	WEBサイトの効果を最大化するために、アクセス解析をはじめとした各種データを活用し、問題点を発見してPDCAサイクルを実践する技術を学ぶ。	3	120	4		○		○			○	
18	○			サイト制作・運営実習	より実践的なWEB制作を通じて、運用に関わるリスクやトラブル、成果を検証し、適切に管理・運営するための戦略的なプロジェクトマネジメントを経験する。	3	120	4		○		○			○	
19	○			プログラミング・アルゴリズム	アプリ開発に必要なプログラミング言語の基礎を学習する。また、問題解決の手順をアルゴリズムの考え方に基づいて整理し、フローチャートを用いて効率的かつ分かりやすく表現する力を身につける。	2	60	2		○		○			○	
20	○			コンテンツ実践Ⅰ	様々な媒体を想定し、WEBプログラミングを用いた表現で制作を行う。ユーザビリティやインタラクションを意識した設計を行うことを目的とする。	2	90	3		○		○			○	
21	○			コンテンツ実践Ⅱ	実践的なコンテンツ制作を通じて、総合的な課題解決力を養う。	3	60	2		○		○			○	
22	○			ポートフォリオⅠ	就職活動に必要な制作成果や自己PRのためのツールを効果的に整理・構成する。	2	80	3	○			○		○	○	
23	○			ポートフォリオⅡ	自身が取り組んできた学習や制作成果を効果的に整理し、対外的に公開することで自己アピールを行うとともに、より深い学びへとつなげる。	3	60	2		○		○		○		

24	○			修了制作Ⅰ	1年次に習得した知識と技術の集大成として、作品制作を行う。	1	30	1		○		○		○			
25	○			修了制作Ⅱ	2年次までに習得した知識と技術の集大成として、作品制作を行う。	2	60	2		○		○		○			
26	○			卒業制作	3年間の集大成として、身につけた技術を社会につなげる実践を行う。テーマに基づき企画立案を行い、企画書プレゼンテーションを実施する。その後、中間プレゼンテーション等による審査を経て、対外的な発表を行う。	3	360	12		○		○		○			
27	○			卒業制作	3年間の集大成として、身に付けた技術を社会につなげるかを実践する。テーマを基に企画立案を行い、制作審査、展示審査を経て卒業制作展において発表する。	3	360	12		○		○		○	○		
合計						27	科目		96(2,860) 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 必須科目全ての成績評価において不可の評価(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時限数の85%以上であり学納金未納でないこと。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 必修科目を全て履修すること。		1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。